

グラジオラス新品種候補の育成

農業総合センター生物学研究所

グラジオラスは冠婚葬祭を中心に業務向けの用途で利用されています。その中でもメインとなる白色の主力品種は、ほとんどが外国産の品種であるため、植物検疫による球根輸入停止等の経営リスクがあることから、生産現場からは安定して栽培できる県育成品種が求められていました。

そこで、業務用途に向く大型大輪系の白色グラジオラス「ひたち12号」(仮称)を育成しました。また、近年、花きの家庭需要の増加が見込まれることから、中小輪系で一般家庭用向けのくすみ赤・オレンジ色ミニグラジオラス「ひたち13号」(仮称)を育成しました。

冠婚葬祭など業務用途に向く白色でボリュームのある「ひたち12号」

平成23年に「ニューウェーブ」と「南都」を交配して得られた植物体から選抜した新品種候補です。

花色は白色で花弁の先にフリルが入ります(写真1)。切花長は125～145cm程度、高温障害である穂やけ症の耐性は中またはやや強で、球根増殖性にも優れています。



写真1 「ひたち12号」の花と草姿

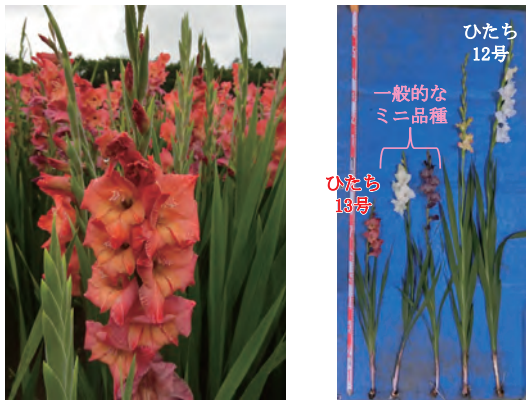


写真2 「ひたち13号」の花と草丈の比較

花束や一般家庭用に向くミニサイズの「ひたち13号」

平成26年に「アンバー」と「トーマス」を交配して得られた植物体から選抜した新品種候補です。

花色はくすみ赤・オレンジ色で、切花長は80～85cm程度で一般的なミニ品種よりも安定して短いです(写真2)。穂やけ症の耐性は最も強い「強」で、球根増殖性も良いのが特徴です。

生産者評価は優れ、普及が見込まれる

両品種候補の現地試験に取り組んだ生産者は、病害虫や生理障害発生は少なく、収量性や作りやすさ、切り花品質は良く、品種化を要望したいという評価でした(表1)。

また、市場関係者は、「ひたち12号」は通年、「ひたち13号」は秋らしい花色から9～10月頃で取り扱いたいという評価でした(表1)。

将来的に両品種候補が現地に普及し、生産者の所得向上に繋がることが期待されます。

表1 生産者評価と出荷時期の希望

評価項目	ひたち12号	ひたち13号
収量(歩留り)	良	良
作りやすさ	良	良
病害虫発生	無	少
生理障害発生	少～無	少～無
切り花品質	良	良
品種化要望	有	有
取扱希望時期	通年	抑制(9～10月)